

令和3年度学校経営計画



広島県立神辺旭高等学校

校番	64	学校名	広島県立神辺旭高等学校	校長氏名	藤木 史朗	全日制	本校
----	----	-----	-------------	------	-------	-----	----

1 教育目標

普通科と体育科を持つ県東部唯一の学校として、他者との協働を通じて高い知性と豊かな心を育てるとともに、様々な活動を通じて自分自身を磨くことのできる生徒を育てます。

2 育てたい（幼児・児童）生徒像

【普通科・体育科共通】

- (1) 目の前にある課題を自分ごととして理解し、蓄えた知識や技能を活かしながら、筋道立ててものごとを考え、他者と対話を繰り返すことで、よりよい解決策を導き出すことができる生徒。
- (2) 多くの人とともに生きる自分であることを理解し、他者のことを考え、責任感を持って行動することのできる生徒。

【体育科】

- (3) 自分の取り組む競技について技術や体力を高め、心を磨き、他者の模範となる行動がとれる生徒。

3 中期（3年間）経営目標

- (1) ICT を活用して基礎的・基本的な学力を確実に身につけ、自分から進んで課題について他者ともに対話し、考えを深めることのできる学校づくり。
- (2) 他者と共に生きる上での基本的なルールである、「挨拶をする」・「時間を守る」・「清掃を徹底する」の3点を意識し、確実に行動できる学校づくり。
- (3) 学びの成果として、進路希望と競技力向上を実現させることのできる学校づくり。

4 短期（本年度）経営目標及び行動計画等

中期（3年間）経営目標						
達成目標短期（本年度）	本年度行動計画	評価指標	現状値（前年度）		目標値	
(1) ICT を活用して基礎的・基本的な学力を確実に身につけ、自分から進んで課題について他者ともに対話し、考えを深めることのできる学校づくり。						
学習習慣を確立し、主体的に学習させる。	自律した学習者を育成するためのICT活用や学習の仕方に関する情報を提供し、目標達成のための学習モデルを提示するなどの個別指導を行う。	スタディサプリを活用して自学を行った生徒の割合	新規		95%	
	家庭等学習時間調査期間中、ICTを活用して生徒に入力させ、結果をフィードバックすることで学習方法や内容・教材について指導する。	授業以外の学習時間（家庭・塾・民間のオンライン学習等）について目標時間を確保できる。	3年	普 体	237分 42分	240分 60分
授業の質を高め、教科指導力を向上させる。	相互授業観察を通して、授業の質を高める。	相互授業観察の実施率	71%		100%	
			1年	普	28名	30名
			2年	普	26名	30名
「課題発見・解決学習」を取り入れた主体的な学びを促す授業づくりを行う。	公開研究授業において主体的な学びを取り入れた授業を行う。	「主体的な学び」に関するアンケート項目で肯定的評価をした生徒の割合	74.7%		80%	
			3年進研9月マーク模試（5-8文系、5-7理系）偏差値50以上の生徒数	10名		15名
ICTを活用し、これからの社会を生き抜くことのできる資質・能力を育成する。	1・2学年教科指導担当教員が、教科内容に沿ったICT活用教材を作成し主体的な取り組みを促す。	生徒用1人1台のパソコンを活用した授業を週1回以上行った学年教科担当教員の割合	48%		75%	

		・生徒がICT 機器等から得た情報の正しさを見極め、整理し、自己表現を行う教材を作成し、生徒が思考・表現する機会を設ける。	アンケートで、生徒用パソコンを活用することで情報を吟味し考え深めて表現できるようになった生徒の割合	95%	95%
(2) 他者と共に生きる上での基本的なルールである、「挨拶をする」・「時間を守る」・「清掃を徹底する」の3点を確実に意識し、行動できる学校づくり。					
「旭三訓」の実践に積極的に取り組む生徒を育成する。	「旭三訓ルーブリック」の発展レベル達成となる「主体」を体感し、自己肯定感へと変換できる生徒を育成する。	アンケートの「旭三訓ルーブリック」の清掃徹底に関する項目で、標準、発展レベルが達成できたと答えた生徒の割合	標準	77%	80%
			発展	52%	55%
			標準	92%	95%
			発展	74%	75%
海外研修旅行・姉妹校交流を通して生徒の満足度を高め、国際理解と異文化理解を深める生徒を育成する。	研修旅行や姉妹校交流の代わりに交流として、ネットを活用した交流を模索する。	アンケートの「授業や特別活動の中で、英語を使って、自分の意見を効果的に他者に伝えることができた」について、肯定的評価をした生徒の割合	64%		70%
			アンケートの「姉妹校についての理解が深まった」について、肯定的評価をした生徒の割合	38%	
(3) 学びの成果として、進路希望と競技力向上を実現させることのできる学校づくり。					
高い目標を掲げさせ、進路希望を実現する。	・進路検討会議を適宜設定し、生徒の状況、志望校の動向、模試の結果、授業以外の学習状況等を共有し、個人面接を通じて生徒の進路意識の向上を図る。 ・様々な機会を通じ、生徒・保護者の進路意識を啓発する。 体育科 自己の競技力を高めることで、進路実現に繋げる。	国公立大学合格者数	36名	40名	
		難関大、広島・岡山大学合格者数	3名	5名	
		3学年4月時点の体育科生徒の希望進路実現率	新規	80%	
技術力や競技力を備え、リーダーシップを発揮できる体育科生徒を育成する。	・強化クラブは中学校との連携を行うことで、生徒の発達段階に応じた技術力や競技力を向上させる。 ・クラブ部長会、体育科集会を実施する。	強化クラブの全国大会出場クラブ数及び人数	部数	-	6
		新体力テストの全項目において、全国平均を上回る(A評価の)体育科生徒の割合	人数	-	65人
			全国	-	96%
			本校	-	90%

働き方改革に関する短期（本年度）目標

教職員の働き方改革を推進し、教職員の人間性や創造力を高め、効果的な教育活動を行うことができる学校づくり。					
教職員の業務改善を進めることにより、生徒と向き合う時間を確保する。	・行事の見直しや様々な業務の効率化を図り、計画・準備・実施にかかる負担を軽減し、生徒と向き合う時間の確保に努める。 ・ICTを活用し、学習時間調査、各種アンケート調査及び集計等を効率的に行う。 ・教材の共有をさらに進める。 ・事務部による起案・決裁に係る研修会を開催し、業務の効率化、迅速化を図る。	子供と向き合う時間が確保されていると感じる教員(管理職を除く。)の割合	71.1%	80%	
		ICTの活用や教材の共有等により、業務を効率的に実施できていると感じる教員(管理職を除く)の割合	73.8%	80%	

別紙：現状分析

(1) 基礎データ

ア 定員に対する受検者数（選抜（Ⅰ）・（Ⅱ） 過去3年間）

		体育科			普通科		
		R1	R2	R3	R1	R2	R3
選抜（Ⅰ）	定員	20	20	20	40	40	40
	受検者数	20	20	20	73	67	67
	倍率	1.00	1.00	1.00	1.83	1.68	1.68
選抜（Ⅱ）	定員	20	20	20	160	160	160
	受検者数	21	20	19	165	171	167
	倍率	1.05	1.00	0.95	1.03	1.07	1.04

イ 進路希望調査（各学年4月）

		入学年度	H30	R1	R2
国公立大学志望者(率)	1年次		58%	58%	(未実施)
	2年次		58%	52%	(未実施)
	3年次		53%	48%	(未実施)
国公立大学合格者(率)			21%	11%	16%

ウ 家庭学習時間（1～3年年間平均 過去4年間）

		H29	H30	R1	R2
1年	学年平均	94	100	109	99
	普通科平均	100	111	122	111
2年	学年平均	113	103	92	134
	普通科平均	125	111	106	153
3年	学年平均	223	185	165	204
	普通科平均	252	205	185	237

エ 進研模試データ（1年7月，2年1月，3年9月 過去3年間）

偏差値	3年生9月マーク模試6-7 文系			3年生9月マーク模試5-7 理系		
	H30	R1	R2	H30	R1	R2
	累積人数	累積人数	累積人数	累積人数	累積人数	累積人数
60以上	3	2	0	0	1	0
50以上	15	10	7	5	2	3

偏差値	1年生7月3教科(国語・数学・英語)			2年生1月3教科(国語・数学・英語)		
	H30	R1	R2	H30	R1	R2
	累積人数	累積人数	累積人数	累積人数	累積人数	累積人数
60以上	1	2	4	5	2	2
50以上	37	34	28	41	34	20

オ 進路実績（全体，体育科 過去4年間）

(ア) 国公立大学合格者数（現役のみ）

	H29	H30	R1	R2
合格者数	42	48	26	36

(イ) 広島・岡山大学, 難関大学合格者数

	H29	H30	R1	R2
筑波大学	1			
大阪大学		1		
神戸大学			1	
岡山大学	3	4	1	2
広島大学	1	2		1
九州大学	1			
合計	6	7	2	3

(ウ) 難関私立大学合格者数

	H29	H30	R1	R2
早稲田大学	1			
慶応大学				
中央大学				
同志社大学		1		1
立命館大学	2	5	1	
関西大学	4	4	1	2
関西学院大学	1	2	2	1
合計	8	12	4	4

(エ) 体育科進路実績

	H29	H30	R1	R2
国公立大学	2			
私立大学	15	25	22	18
公立短期大学	2			
私立短期大学	2	1	1	1
専門学校	11	4	7	8
就職	7	10	9	11
公務員	1		1	
未定				
合計	40	40	40	38

(オ) 公務員合格者

平成 30 年度 公務員は広島県警, 兵庫県警, 広島県職員 (小中学校事務)

平成 31 年度 公務員は神奈川県警, 広島県警, 陸上自衛隊

令和元年度 公務員は広島県警, 愛媛県警, 陸上自衛隊

令和 2 年度 警視庁

カ 部活動加入率 (1 年, 2 年過去 4 年間)

	H29	H30	R1	R2
生徒数	719	711	711	705
運動部加入率	65%	68%	68%	66%
文化部加入率	23%	23%	26%	26%
全体加入率	88%	92%	94%	91%

キ 生徒指導状況 (特別指導, 携帯電話, 遅刻者数, 服装頭髪指導 過去 4 年間)

(ア) 特別指導

	H29	H30	R1	R2
携帯電話	9	24	18	24
その他	3	4	6	8

(イ) 遅刻者数

	H29	H30	R1	R2
年間遅刻者数（延べ数）	31人	30人	29人	13人
1日平均遅刻者数	0.16人	0.15人	0.16人	0.08人

ク オープンスクール参加者数（中学生総数，地元7中学生数，地元7中学3年生の参加率 過去4年間）

	H29	H30	R1	R2
中学生参加者総数	662	643	658	564
地元7中学3年在籍数	908	934	963	880
7中学3年生参加者数	335	345	337	258
7中学3年生参加率	36.8%	36.9%	34.9%	29.3%

ケ 学校評価アンケート結果（肯定的評価の割合 過去3年間）

アンケート項目	H30	R1	R2
神辺旭高校の「教育目標」と「育てたい生徒像」を知っている	73	73	70
神辺旭高校の生徒として誇りを持っている	95	94	91
神辺旭高校の特色である「文武一道の実現」に向けて頑張っている	88	88	88
旭三訓の「挨拶励行」ができています	98	98	98
旭三訓の「清掃徹底」ができています	92	91	94
旭三訓の「時間厳守」ができています	96	95	94
神辺旭高校の授業は、「学びのプラン」を通して進められている	89		
本校の授業は、「授業で身に付けさせたい力」と「評価規準」が明確になっている		81	82
神辺旭高校の教育活動を通して英語を使って、自分の意見を他者に伝えることができた	67	61	64
神辺旭高校の国際交流を通して、姉妹校についての理解が深まった	80	77	40
神辺旭高校の国際交流を通して、ホームステイや留学に興味をもつようになった	48	50	31
神辺旭高校の国際交流は、充実している	87	84	53
神辺旭高校の国際交流を通して、自国の文化について他者に説明できるようになった	61	60	39
進路に関する情報、資料は整っている	96	95	92
進路指導は、自分の進路決定に役に立っている	89	89	87
進路指導は、自分の将来の夢や目標を実現する上で役立っている	93	93	92
心配事や悩みについて相談できる先生がいる	77	80	80
神辺旭高校は生徒指導に力を入れている	97	95	93
部活動は充実している	97	96	96
部活動に一生懸命取り組んでいる	88	86	86
生徒会活動、学校行事は充実している	97	96	87

(2) これまでの成果及び課題（あるいは、強みまたは弱み）

ア 学力向上及び進路指導について

○ 学力向上

新しい学習指導要領への移行も間近となる。「知識を活用し、活用する過程で知識の定着を図る」という指導を今後も発展的に継続する。昨年度は、相互授業観察を実施し、ICTを活用してコンピテンシーを育成する授業を目標に、互いの授業を観察・研究してきたが、前期・後期を通して71%の実施率にとどまった。今年度も引き続き相互授業観察及び公開研究授業というスタイルで実施し、学校としての授業研究を推進することにより、ICTを積極的に活用しつつ生徒の主体的・対話的で深い学びにつなげていく。

○ ICTの活用

今年度は、「学びの変革」を更に加速させるため、ICTを基盤とした環境整備を推進することだけでなく、その活用方法についても教職員間で共有する機会を作り、各教員がそれらを積極的に活用できるようにすることで、探究的な学習活動を充実させることとし、県立高等学校におけるPC端末導入1人1台の先駆的取り組みを行う。また、ICTを効果的に活用することにより、自ら新しい価値を作り出す力や多様な他者と協働できる力など、これからの変化の激しい社会を生き抜くことのできる資質・能力の育成に取り組む。

○ 進路指導

国公立の難関大学、広島大学や岡山大学への合格者数と国公立大学全体の合格者数は昨年度より上昇した。しかし、昨年同様に1,2年生の模試の偏差値については、目標値に届かなかった。学習成績の分析により、個別最適な指導が行える環境を整え、基礎・基本の徹底をさせていくことが課題である。各学年でスタディサプリ等を活用し、各教科の学び直しを意識した取組を行い、基礎的な学力を確かなものにしながら、その上で生徒が自分で計画を立てて、それを実行していくように主体的で自律的な学習を進めていけるような姿勢を育てていく必要がある。また生徒に対して高い目標を持たせる指導や学力を伸ばしていくために今後も粘り強く学習を積み重ねていけるような指導に重点を置いて取り組んでいく。

イ 生徒指導について

○ 規範意識・部活動・特別指導

旭三訓をより充実させるために、全校朝礼や学校行事の場面などで、「旭の伝統」として生徒に伝えていきたい。また、学校行事や部活動などで得た達成感・自己肯定感を、主体的に行動する原動力に変換できるよう、「やらされる」行動から、自主的に「やる」行動となるような働きかけをしていきたい。

部活動について、昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、全国大会のみならず県大会等も中止となり、生徒が競技力の向上を実感できる場への参加がかなわなかった。今後も引き続き運動部の競技力向上と文化部の活動の強化等に取組んでいく。

特別指導については、近年SNS関連の指導が増加傾向にある。今後、スマホ・携帯電話等の使用について、集団規範意識高揚に向けた取組を行っていく。

ウ PR・広報活動について

オープンスクールは、中学校生徒564名と昨年度比約80名減、しかも地元7中学3年生参加率は29.3%と約10%減となった。新型コロナウイルス感染症の影響があったとはいえ、今年度は説明や内容を工夫し、より多くの中学生に本校の教育活動への理解を深めてもらうために、行事等をHPなどで紹介し、アピールしていきたい。

エ 積極的に国際交流を進める生徒の育成について

国際理解の一環として、海外研修旅行や姉妹校短期留学を行っているが、新型コロナウイルス感染症の影響で研修旅行自体が中止となり、国際交流行事自体が全く実施できなかった。代替りの措置として「授業や特別活動の中で、英語を使って、自分の意見を効果的に他者に伝える」ことに取り組んだが、できたと感じている生徒は64%に留まった。今後も実地交流に代わる、より効果的な交流行事を検討し生徒の国際理解をさらに深めていく。

オ 教職員の働き方改革の推進

多量の業務を遅滞なく遂行するため、教職員が勤務時間内外を問わず、空き時間に業務を行っている。これは、生徒への学習指導・部活動指導・教育相談等、生徒とかかわる時間を失うだけでなく、過度な残業を生むことにもつながる。今年度は更にICTを効果的に活用し、これまで時間をかけて行っていた入力や集計の作業を効率化したり、放課後補習を民間のICT活用教材を利用したりする。さらに、教材の共有を進めるとともに、業務分担を明確にし、特定の人物に業務が集中しないよう取り組むことで、今年度も働き方改革の推進につなげる。